歌合

へ4
3345

3345

利へ門
3345
巻

大正元年十月二日寄
山田市郎氏贈

ちり天家

一年ゆえひしさそれもかく成り
あひ原りの中宮乃こう年
意くくくまちこ秋花兄有成
ようしとりの風発ちかあつん
成うきるちきり形くまハつるきこの
きり秋ちう鳥やあのこきめつん
ちと神ハかてつこうんこれきこ神
ちきりうこのき雲のこれを
秋りかりそふとそれあしあ成の
そうハ面恵仏のこきち
御えうるまきのちきれ家のま神
りやおりひしよきうえうつるん
ゆぬとかの神ちこあく雲星恵
うつちいそるあ方の川きり

ちり地俳

感力のこう後神いろ乃と紀きゆ御

あれるようなる物ちがひ
ひとつ〜事葉の変化清くとも
こよひはうの〜のくもりもむ
さたへおきちきりれるし撫女恵
ゐるハ去ゑ乃きの〜のはき指
爺秋も牡ゐりえ〜根きえの
とるよるきんを白いと
星宮のうこ代乃ちきりも物りきく
つき物うゑ云るる秋乃うえの
勅使うこあのいとよし清うゝ如
ちきりるめ〜や意ゐうゝんん
名ゑ墨てつきを如秋ゑ由〜宮乃
き海のまちこや〜ちきりもあ〜ん
ゐう
れとゝこ去ゑ年ルゐ節の変面ゑ
りとめいあき秋とうゑ伝りとゑ年
ル墨月ちわゐりゐゐうて分月

夜おほつるあくのこありるれハ名る
あふ考いうあゝむとゐひつを伝り如
この二ゐるハ牡とゆこなふ波ゐ海〜
とう海ゐり時昌ゐゐくきはハ日新の
さあゐにはち〜也ゐ也と世界の面の名海
ゑひまりを時ゐりを書つゐゐいい
ゐゐ名を面やきにも〜如ゐもる面
秋風ゐう弟に去こはく〜ゐゐ
う変とゐあ如ゑ也ハゐゐ〜て名
ゑまふ月のいと昌ゆにり也ゐる海
つき〜ゐも〜をいきむ方れくゐう
むゐハ海ゐゐう海ゐる変又ゆとル
れふゐをつく新ルゐつれゐぬまく
秋の月ハさゐうゐりと泉宗道のゐと
ゐり南部とゆゐようゐゐル海ゐ
ルきりゐりひゐゐる也伝りて
秋牡ルゐゐこやいうるあ川きら変

[illegible]

[illegible]

[illegible]

り〜菊姫様ちうかたまきそめ姫
あく〜ゐ九つ〜弥ふく〜空
菊の屋そいとくしたぬ紙して
あらまし〜き弥ふの書に家の内ゐ
くつ〜きうり姫満ち姫乃屋と
うてはるこふくむと面をゆうて凡の
書九志川まるゆうゐ八中姫の梅〜
てルこうりうちく〜なりうとひき
おこう〜ゐとこうこく〜とこ形ひのしを
乃と〜

中姫九方弥姫弥ゐにあれたこう
ゐ〜姫と形りのゆとそうゐ姫ゐ

御姫君

弥清姫殿うれまひてうそる
き年月のうつゐりうゐ九志てうの
菊のゐ姫〜〜い姫う弥ゐ十ゐまう

こう年姫御志御むう人行り姫菊の葉に
けうとくりゐ〜の道に乃をゆふ中に弥清
のゐ和ゐにゐこうきく御ゐとゆひ
御ゐうゐ姫姫弥とこよ形うすれゐひ〜
菊の弥月のり形ゐ〜の書をすゐゆう
こうこうのつるきおうくちうゐ志ゐ
ゆひ形乃にうりていことに中ゆゆ家
御面の書うする梅ゐ九ゐ〜ひうゐこ
乃ゐ形き御〜ゐ姫ゐとゐうゐ
菊の京の家ゐてルこうひ〜ぬていとゐい
ゐ姫ゐ志姫のゐにうゐひ菊ゐ梅き
業九志〜ゐ姫御の清ゐをゐ〜ゐふ面て
面形きゐう菊と乃ゐゐ〜姫御中ゆ菊
とゐ〜行ゐに菊ゐ
ゐき形ゐ十ゐて〜こと形すゐ〜来ゐ
姫のゐ乃御姫九ゐ姫ゐ九姫ゐゐ
村面姫ゐうこと志のゐ姫ゐふくゐ〜

なうとをとつてとらてるうう
あうつきは神るもちひて法うへ来し
むうとをのふこうらしそのつ
こうはあとは法をのくとやあらあ
あのをつルふくくのこはこの系
ゑまくくは爲の深ち　有一世に
うをてルきゆる新をちう新
ゆうらし恵のつをのうはくる
いまちくそくのあうくとゆる
れうつ付
新ふをはをりふといふまと
人くよくてまるとく
かちふ恵を新ルめうくく十年ふうり
うくゆとをのるゆ　多勝のつ
七月十三夜の望うたりよ隠
うくうくうらかあゆ満光ちり

のくちルれくく強むひうるゆふ
うれーをゆくいをむをの参をゆき
ちくはゆりくうくれ月葉のちる紀
に候かをりぬるゆ菊のをいろくの花
ゆらあうれとけとうわりあひする
秋風ひゆうに空とゆ了の芳うう
あつあいと羽にをむりのう秋ふ紀
雲の光のきりうりふ玉のうそ乳
ルむうをルは秋津をの光とうく
本音の月は月さゆりに波ゑ毫あふう
さいと六字をちあに色て水中
のりのりきあつむ新ルういハ月
乃ちなりむう
光ルはちにををとはうく秋津すは
ひうりあくいはなる月乃をう
かををるこはのあ山に新をく
黄色はりはゆ秋う月乃光毫

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いつれらまことかもしらす
まかれ侍りて
候花のいろ〳〵ひとしきに
あらしの
風ふきのあと〳〵乃
日の新のうつろふかと
清く花のいろのこと
候をひてはと白ひる
のとり
はしたのもれ
日うす〳〵のとり
さらの十四
紙きれとうそ
ちあはせ
てりをうそ
ちるもう
清ふつ
言葉ありて
花とはなる
風
ふかぬ
ありて
ふて
あき

所〳〵あいこ〳〵
清まあり
ありく
施しをえ
ひきて
ひけは
家ルあり
月のあり
ありと
名津
ひらいて
かくて
すま川の
とこ〳〵
さ本の
ようを
ちあるル
出ぬ二ちる
みあに
ふル牧
思ひ
のくちう
ちの
菊ル
清河
ちあ新
ありて
ひ蛾を
ひて
ちすれて
あ
ちる
たゝ酒ル
ちはい
ちこ
ちい
ちく
ちを
ちを
ちを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一年紙ちらすとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この系とかきつけてあるこの高
ふる竜こと思ふ事に彩ん
霧によりて
姫ゑ
霧うちかきはらひ　ゆえ
くるあ京ことに　さて志のふる雲
七年此人の　をりひ出
神おきそふる　そくの上の霧
竜霧ときてくさ　おりの事神
の神志のそふ　七と路恵
天て秋のつ秋　おりの事神
きこいまはうり　志のふさ秋
大ルきこさ秋京　きつに志つ北
きえうつ　神志つ
七年此　神うつ
志のふる　そくのり
考はに消　おりの事

志のつをおはる　そふの上此霧
いまはに志ふルさ　あて路
霧と消ふし　人のおの事
はて路霧と消ふし　おりうを
ふすれ志のふ　七と路乃
分霧とさえふし　人をあれる
さやセと路乃　秋をむつる
竜霧いはをさ　七と路
おきを志のふ　神を志
さう秋く消ふし　秋此志
おりいて消　七て此
の秋うし　秋此の
志のふ　にいまうる

長月十三夜　梅雪

津すの花よりつこしひの芝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

波よりもなほ世の中の夜の月
影波間さやかにかりはこの夜
月の光と作りしもの
月下菊
旅れ人やとりうる家の月新鮮
いつこうこの家の月よりも菊
光をふる岩の面をくらしく
面くらしく旅の月よりこの
月下の菊
拍子のこゑをみるこゑ和しつゆとあて
拍子ばかりくるやつおるすもん
うしやくんとむくつかをれ
をすてをうくるものをくら
菊月祝
高くゝ松世くゝさきをかりをと
ことのこふ月乃色よめるかを
ことをれ松葉めるり菊さるの
月ふるぬ世のうをくゝ
うゑをして新を初つむとを
いしめるうさをきをの一村の月
うをれをいつこなれ
すむ新のこりをいるうさやを
世のおりさををとよをすゝん
かくて旅ふる猫目ををりき
をうゝおりくゝねをなゝをうをを
のをくしをしをしをしをををを新
どをををををををををををををを
小袋ふるくゝいくをををををり
こを旅れをのの月かをををぬ新
牡丹花ををををををををの年
菊月十四夜
雲しいををををををを初秋梨
さやかれる月ををれをを作旅
菊ふるをりををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又うらのひがしよりなれいかの
のゝ紙いそぎのこゝろ書の行脚
たゝ〳〵やしきにまいりて面白く侍
田面のゝ〳〵ふるとりもつゑいと
れし〳〵
かゝらふる書のゝかこゝろひさ
や紙又〳〵小田のあの松さをし
泉井戸といふ所の大海家よ
こゝふくゝふ清さうよぬう
さいをりて
君となるまこふりの色とゝ乃すゝ乱
神のかつみとたすうこゝ
井の水紙むあひてたるひつけ
新さい清さ泉井のあるよわらゝ
神のめつゝとゝ
小川のかとうふれうりゝ
似れよめさをゝ柳さんこに法

日ゝ
ものもをとふのたのこと
ものゝなりてゝとゝ
ふ寅ゝてゝ
かとうもうなれはつゝつゝ
の石瓶ゝ小田のりかゝとゝ
ゝとゝゝ郎ゝ実をもてひ
ぬる日ゝもゝ廣く郷りは
こゝ〳〵この流ゝゝ
ゝさうく文角田川ゝ
ゝされゝ
ゝこゝ物ゝ
子むもうゝ春ゝ
うゝむふはれよゝひゝ
西ゝとこゝ
北ふ川辺めゝ
市紙のゝ
ゝをゝ

[illegible]

今日は五月の日なり[illegible]
柳の[illegible]川岸なれば年毎に[illegible]
[illegible]すとて五つ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ケつをとくすゝぎたちにやつて
稽すられるゝと者これかゝ生
侍よいる

いゆ川桑おきさくんぬすてゝ川
ぶ〇これいてゝ一ふか仙稽ケ
者をこの宮拓をぶりゝこれこうか
ゝぬつさ切不と木を蔵りゝかゝ
よ弟身をゝのゝいゝゝやゝゝ
ちの梅をかをゝくれ切来ゝゝ
ゝ孤と切ゝすついゝゝ仙越ゝ
川色のゝいよ附をゝて小粮ゝゝ
つゝ元法ゝゝゝ者やゝゝてや
られるゝよ二津ゝゝと河ふよ丸
ゝゝゝゝゝゝすゝいゝゝゝゝゝゝ
ゝゝよゝいゝて
ゝふまこ丸ゝゝふゝちの梅よ越すて
こて湯ゝさゝゝゝゝ川つゝ

れゝゝゝゝ名紙なれゝゝゝゝちゝ
をこれをゝゝゝゝゝ川弟のふ〇梅
されすに岩よゝゝりせ一知人の
ゝゝけよゝれゝゝを拓れ者ゝ洗
なゝれゝくゝゝゝゝゝゝの位一星
ゝの弟ゝゝくゝこの川岩よつゝふ元
ゝゝゝれゝゝゝゝゝ六年の走り
ゝゝゝゝゝ波ゝゝゝゝいゝ弁の
者ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
んゝゝゝゝに来ゝれゝゝゝゝ来ゝれ
ゝれ井にゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝ波ゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
やゝゝにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝ（ゝ附ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

世のうつひなう一日くとこそうひ
ちまち人の上さへ紙のうちかくのは
ゆとんめうらふんひつてそ
名よつくうき世のゆめはかなく
されるれすそそんあさのう祇
文すりはてをひいかをとうひ
うれ時義若のうつ荘子来
光門で入りもひうる紙ひつそ
ちれうれうまれるれと更衣前
目のさうなねハ月の前空笑く
こてにすしりいとあでこひ整
ちまやうりのあのれふかくしあよ
ちふしるる人やと附句の物
無鶴りありたるく意生よ
ふ入ふもの付うる平にるん

名すしわふ私の家はよわしこの祇
ふすりされと清めるれ恵それ墨
やんと思ひ作りしこやうあふう
て恋ますなうらうしてもあの月の
こうへくしふすしうるるのとも
るくこりるるるくれいやれなそへ
つれれさいもんそれ紙ともつ新に
行人のとそ恋歌ひよそうれ
月の拍ふへ月あそふれうしう
私こひ新ふうつるうそれ
名のこうそふ月時とうるれ
ちりそていうふ月ねくあさんそ
ふいうるしさこるしすあそいせ
歌とさうく
月前松風
名すしわふこひとりの初夏や
すちうあそのの月ふくうん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]